

暗唱のすすめ 短歌二十五撰・春の歌①

いわばし たるみ うえ
石走る垂水の上のさわらびの

も い はる
萌え出づる春になりにけるかも

しきの みこ
志貴 皇子

よ なか た さくら
世の中に絶えて桜のなかりせば

はる こころ
春の心はのどけからまし

ありわらの なりひら
在原 業平

さと て こども
この里に手まりつきつつ子供らと

あそ はるひ く
遊ぶ春日は暮れずともよし

りようかん
良寛

イ にしゃくの ばら め
くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の

はり ワ はるさめ
針やはらかに春雨のふる

まさおか しき
正岡 子規

さくら いのち なが
桜ばないのち一ぱい咲くからに

いのち
生命をかけてわが眺めたり

おかもと こ
岡本 かの子